

令和4年度 第8回行財政改革推進委員会 会議録（要旨）

1 日 時 令和4年10月21日（金） 18:00～19:36

2 場 所 旭川市総合庁舎議会棟第2委員会室

3 出席者 大森委員，奥山委員，佐々木委員，長谷川委員，宮崎委員，靱岡委員
（事務局）総務部行政改革課 片岡部長，小山次長，及川課長補佐，水沢
総合政策部財政課 小澤課長，万年課長補佐

4 公開・非公開の別 公開

5 会議資料

次第

資料1 令和4年度行政評価の実施に関する答申案

6 議事要旨

(1) 令和4年度行政評価の実施に関する答申について

ア 説明・質疑応答

事務局から資料に基づき説明した後，質疑応答。概要は次のとおり。

（委員）

全体として議論を簡潔にまとめた内容となっている。施設等利用費給付事業の改善・対策の方向性は、「引き続き，安心して子どもを生み，育てることのできる環境づくりに努めること。」とあるが，「引き続き，」でなく，従来よりも質を高めていくような評価とすべき。

（委員）

同感。「心豊かに安心して子どもを生み，育てることのできる環境づくりに努めること。」としてはどうか。

（各委員）了承

（委員）

生活保護適正実施推進事業の改善・対策の方向性も，「引き続き，就労準備段階における就労意欲の喚起に取り組むこと。」とあるが，従来よりも推進するとの意味を含む評価とし，「より一層，就労準備段階における就労意欲の喚起に取り組むこと。」としてはどうか。

（各委員）了承

（委員）

鳥獣対策事業の改善・対策の方向性の1段落目2つ目の文章を「併せて，北海道警察との協議など関係機関との連携強化を図り，先手を打つなど危険個体への対応に十分に備えること。」としたい。

（各委員）了承

（委員）

広域行政推進事業の改善・対策の方向性の１段落目に「既存の取組の深化を図ること。」とあるが、「既存の」は削除してよいのでないか。新しい取組に消極的な印象を与える。

（各委員）了承

（委員）

同事業の改善・対策の方向性に、企業や民間との連携を含む文言を入れてはどうか。

（委員）

対象事業には、経済界のほか、様々な分野の団体との連携が重要な事業があるため、様々な団体との連携を進めていくべきというような評価としたい。

（事務局）

それでは、関係団体と連携して取り組むなどの表現はどうか。

（委員）

良いと思う。なお、２段落目の「庁内部局及び各町と連携して取り組むこと。」について、所管課が庁内でリーダーシップをとって進めてほしいという思いがある。ただし、庁内部局との連携は、旭川市の組織内のことであるため、「庁内部局」の文言を記載しなくても構わない。

（委員）

「各町と連携して取り組むこと。」の「各町」は限定的なため、「周辺自治体」とした方がよいのではないか。

（会長）

それでは２段落目を「その推進に当たっては、圏域を牽引する旭川市が更なるリーダーシップをとり、周辺自治体及び関係団体と連携して取り組むこと。」としたい。以上をもって、答申書の内容を決定してよいか。

（各委員）了承

イ 答申書の交付

杣岡会長から片岡デザイン行政改革担当部長に答申書を交付した。

(2) 令和４年度行政評価の審議全体を通しての感想

各委員から審議全体について感想と意見があった。概要は次のとおり。

（委員）

市が様々な部署で多岐に渡る事業に取り組んでいることに感謝する。行財政改革の目指すものは、市民目線に立った行政の推進、費用対効果、さらには働き方改革である。これら全てに改善が見られる方法で検討をしていると思うが、引き続きこうした目線に立った仕事を進めてもらいたい。

（委員）

昨今のデジタル化のスピードを考えると、もっとデジタル化が進んでいくのだろう。国の進め方があると思うが、市としてこうした動きに振り回されることなく積極的に使いこなすことが重要だ。各課の担当者が行政の効率化に向けてデジタルを取り入れることが重要である。

（委員）

本委員会に参加することで社会貢献の機会を得て大変ありがたく思う。今後もこうした委員会等に積極的に参加したい。本委員会は、事務局の人数が少ない中、これだけの審議をしている。事務局の負担軽減が必要と思う一方で、これだけのことをしているならメディアを上手く使うなどもっと効果的な情報発信をしていいのでないか。

(委員)

本委員会に参加するまでは、行政の事業がこれだけ多岐にわたり、こうした質疑応答をして改善していく会議があるということを知らなかった。内容は難しかったが、とても良い経験となった。今後、デジタル化が進めば、若い世代の方が詳しいことも増えていく。若い委員を増やした方がよいのではないか。

(委員)

行財政改革は、行政が自らを改革するという意味で大変な仕事だろう。しかし、本委員会で選定した12事業は馴染みがありイメージしやすく、委員会での議論も取り組みやすかった。委員を増やすことはよいと思うし、もっと注目されてもよいと思う。

(委員)

2年にわたり様々な議論をし、市の事業とはこんなにも多種多様なのかと感じた。様々な年齢、職種の方の意見を率直に聞いたことは勉強になり、楽しいものであった。日程調整が難しくなるデメリットを考慮する必要があるが、委員の年代と職種を広げてはどうか。職種は、例えば弁護士や司法書士、公認会計士、教育関係、民間企業などがあり得る。